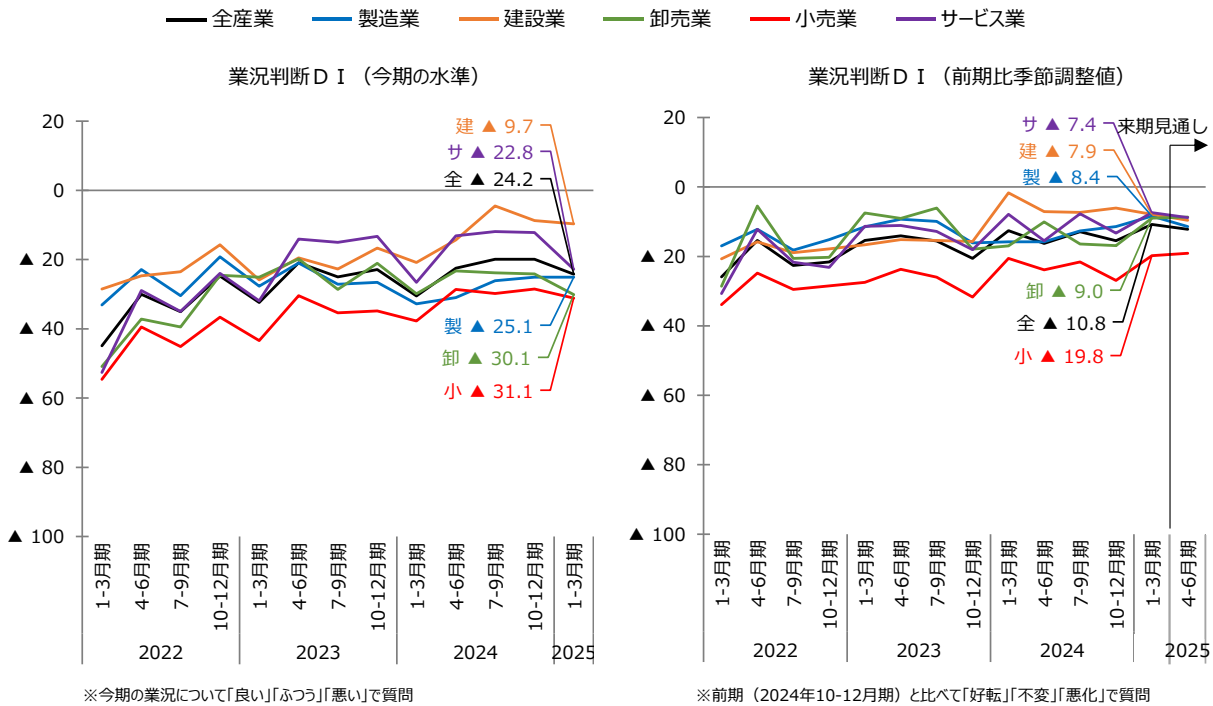


第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中部



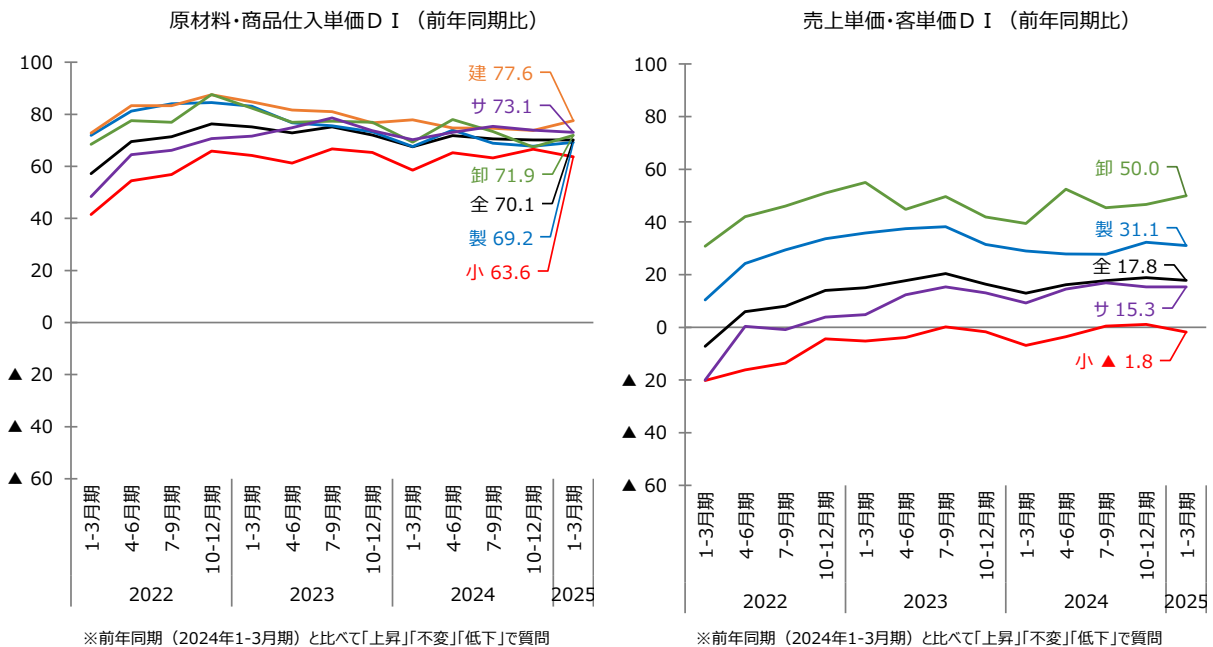
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より4.3ポイント減の▲24.2と4期ぶりに低下となった。産業別にみると、製造業で横ばい、サービス業、卸売業、小売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より横ばいの70.1となった。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の17.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業で横ばい、小売業、製造業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、中部：2,263企業

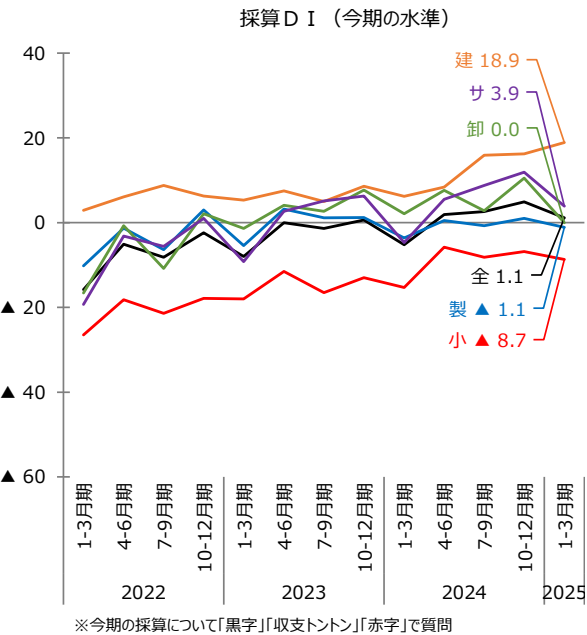
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中部



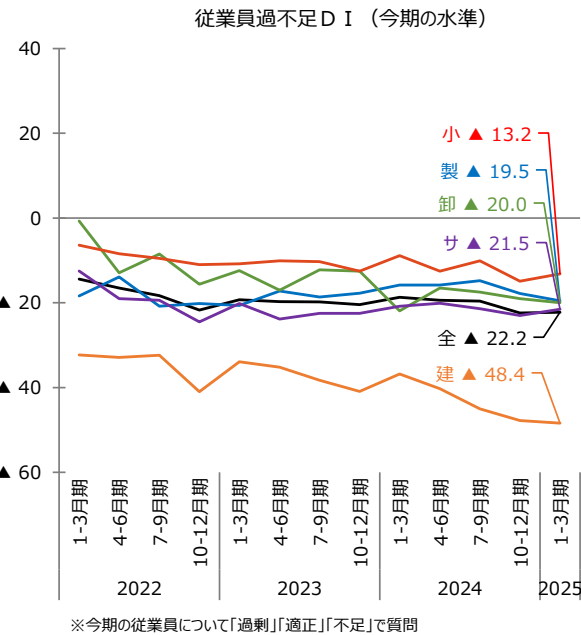
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の1.1と4期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、小売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲22.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業で低下した。



5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	野菜価格の高騰、ガソリン代の高騰、賃上げにより原価が上がって利益が少ない。地域の高齢化が進み、顧客減少で売り上げも厳しいです。	製造業	冷凍調理食品 製造業
	燃料費高騰の影響で問屋の値上げが加速、材料の手配など厳しい状況は続いている。人材に関しては高齢化が進み若手人材の不足が深刻化している。対策はとっていると思うようにいっていないのが現状である。	建設業	金属製屋根工 事業
	キャッシュレス化の希望がある中で、利益から決済手数料を差し引かれることによる負担が大きい。決済手数料分を売価に上乗せできるとありがたい。	卸売業	その他の衣服 卸売業
	認知が増し、客数が増加傾向にある。また、海外のお客様もグルテンフリーで検索して来店している。今後、席数の確保やカフェメニューの増加及び、英語のメニュー表などの対応を検討していかなければならない。	小売業	菓子小売業 (製造小売)
	昨年に比し売上高は変わらないが、ランニングコストはあがっている。社員が減り収益は改善されたが、一人一人の負担は増えた。負担軽減と売上高の維持継続を両立のためには人材の採用が必要だが、人件費増が怖い。	サービス業	広告業
見通し	人材確保のため大幅な賃上げを計画しているが値上げ以外の努力に限界を感じている。今後更なる値上げ交渉をどう進めていくかを熟考しているが、未だに打開策が見つからない。	製造業	強化プラスチック 製板・棒・管・継 手製造業
	地震の影響で受注は増えているが、すべてを受注できず、下請業者も不足しているため断ることが増えてきている。来季やその次年に不安が残る。	建設業	板金工事業
	販売単価が上昇して今は利益が取れているが、反面買い控えが始まっているように思われる。これ以上物価が急激に上がると業界としてはかなり厳しい状況になると思う。	卸売業	菓子・パン類 卸売業
	昨年は意外に業績は悪化しなかったが、背景には同業者の廃業により新たなニーズが増えたことにあると思う。しかし今後は需要が停滞するだろうと顧客の高齢化と人口減少の観点から予想している。	小売業	各種食料品小 売業
	能登地震の影響は昨年あったが、各種キャンペーンで概ねリカバリーしてきている。しかし諸物価が高騰してきているので、採算性を上げていく必要がある。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。